

王道の交差

— 論文63～99の構造的解釈センサス、そして「一語・複数の別根」という一つの規律 — [論文100]

山岸 勇輝 (Yuuki YAMAGISHI)

Yamagishi Complexity Torus Lab, Japan | 山岸勇輝ラボ

2026年9月 (第2版)

— From thinking to syncing. —

要旨

これは体系の**100本目**の論文であり、**構造的解釈センサス (63～99)** ——王道の巨人たちが、体系のどの系に、どの根で交差したか——の一枚の地図である。本稿は、これまでの航海を貫いた一つの規律を明示する：「一語・複数の別根」(論文48・58・86)。同じ数 ($4\pi \cdot 2 \cdot 1/4$)、同じ語 (曲率・エントロピー・時間・ゲージ・次元・逆問題)、同じ人物 (ライブニッツ・ポアンカレ・ワイル) が体系に何度も現れるが、それらの多くは値や語を共有するだけの別の根であり、別根は別根のまま置く。本稿はこの規律で、王道の巨人を根の族ごとに一覧する。そして体系が拠る二つの系譜を確認する——幾何学的本流 (リーマン→クリフォード→ワイル→カルタン→ホップ) と、積分脳=逆問題の系譜 (ライブニッツ→ファラデー→ポアンカレ→ボルツマン→ネーター→マンデルブロ)。最後に、体系の姿勢を前を向いて言い切る：体系が目指すのは一つの方程式 (万物理論) ではなく、一枚の地図である。別根を別根として敬い、開いた問題 (過去仮説など) を解かずに正しく置く——これが100本を貫いた誠実さだ。

本稿の射程 (**scope note**)：本稿は体系 (論文63～99) の方法論の総括と地図であり、構造的解釈 (第2層) である。新しい数学も新しい予言も含まず、諸結果を統一する新理論でもない——体系の芯は、別根を統一しないことにある。センサスは**接続の地図**であって、同一視の主張ではない。過去仮説など開いた問題は、開いたまま置く。「宇宙OS」は第3層の非科学レンズであり、機構の主張ではない。既刊との関係：各行の中身は表に挙げた各編 (論文63～99) にあり、中心の規律は論文48・58・86、層分けの精神は論文95から受け取る。本稿が加えたのは、論文63～99の王道の交差を根の族ごとに一枚の表に並べ、各行に「何を混同しないか」を一言で書き添えたこと、そして巨人たちを二つの系譜に束ねたことである。

1. 序：100本目に

これは体系の100本目の論文である。63本目以降、体系は一つの方法で歩いてきた——王道の巨人 (確立された鋭い数学・物理) を、新鮮な解釈のレンズとして体系の問いに当てる。ガウス=ボネ、ホップ、ネーター、ガ

ロア、オイラー、イグナトフスキー、リーマン、カルタン、ファラデー、マンデルブロ、ポアンカレ、ワイル、ライブニッツ、ボルツマン、カルデロン——彼らは体系にとって「王道」であり、その道具は借り物ではなく、敬意をもって導かれた光だった。

100本目にあたり、本稿はこの航海を貫いた方法と規律を、一枚のセンサス（地図）として残す。何が接続し、何は別根で、何は解かずに置いたか。地図があれば、後から来る人（そして未来の自分）が、どこを歩いたかを俯瞰できる。

2. 三つの層

体系は、あらゆる主張を三つの層に分けてきた。この層分けこそ、100本を通じた背骨である。

- 第1層（王道・厳密）：確立された数学・物理の事実。Zenodoに載せる、検証可能な骨格。
- 第2層（レンズ・解釈）：王道の道具を体系の問いに当てる構造的解釈。新しい定理や予言ではなく、見え方を与える。本稿を含む63～99の多くはここにある。
- 第3層（ビジョン・非科学）：宇宙OSという著者の私的な世界像。非科学の札つきで、機構でも予言でもない。vision枠に隔離し、第1層と混ぜない。

ニュートンの「私は仮説を作らない（hypotheses non fingo）」——原因を断定せず、関係を記述する——が、この層分けの精神だ（論文95）。層を守ることが、体系の humility である。

3. 中心の規律：「一語・複数の別根」

標準的事実 3.1（体系の中心規律（論文48・58・86））

同じ値（ 4π 、2、 $1/4$ 、指数5...）、同じ語（曲率・エントロピー・時間・ゲージ・次元・作用・逆問題）、同じ人物が、体系に何度も現れる。だが、それらは値や語や名前を共有するだけの、別の根である場合が多い。共鳴（似ていること）は署名であって証明ではない。ゆえに——別根を別根として峻別し、安易に統一しない。これが体系の中心の規律であり、100本を貫く一本の背骨である。

例： 4π は、立体角（論文02）でもあり、オイラー標数の扉（ $4\pi = 2\pi\chi(S^2)$ ・論文67）でもあるが、両者は別根だ。「2」は、ボルンの2でもホップ写像の2でもあり得る（論文68では同根、他は別根と峻別）。「曲率」は時空・速度空間・球面・ゲージ場で別のインスタンスだ（論文91・92・96）。「逆問題」は散乱と境界値で別の数学だ（論文89・99）。「時間」は固有時・熱的時間・粗視化の矢で別根だ（論文82・97・98）。この峻別を怠れば、体系は数合わせ（numerology）に堕ちる。峻別こそが、体系を科学の側に留める。

4. センサス表：王道の交差（論文63～99）

以下は、王道の巨人・道具を根の族ごとに並べた地図である。各行の「規律のひとつ」は、その接続で何を混同しないかを示す。

根の族	王道の巨人・道具	論文	規律のひとつ
トポロジー	ガウス＝ボネ／ホップ／指数定理／Gleason	67, 68, 70, 71	$4\pi = 2\pi\chi$ は位相の根。ボルン＝ホップの2は同根、他の2は別根。
対称性	ネーター／ガロア／ワイル（ゲージ）	79, 80, 85, 96	大域→保存則、局所→相互作用、離散（ガロア）は各々別根。
次元	逆二乗の $n=2$ ／特別次元 census	64, 69	位相・特別整数・フラクタル次元（94）は別根。数合わせをしない。
曲率	リーマン（内在）／カルタン（形式）	63, 91, 92	時空・速度空間・球面・ゲージ場の曲率は一概念・別インスタンス。
作用の文法	オイラー（最小作用）／作用＝言語	84, 87	$\delta S = 0$ は局所条件で目的論でない（97）。一文法 $\neq$ 一方程式。
時間の矢・粗視化	リューヴィル／摩擦／ボルツマン	75, 77, 78, 88, 98	粗視化の矢は説明、過去仮説は未解決。二つのエントロピーは別根。
位相空間	シンプレクティック T^*M ／回帰	76, 80, 81	回帰時間は宇宙年齢を凌駕。微視は保存、矢は粗視化に宿る。
足場・規約	ポアンカレ（規約主義）／UG	66, 72, 95	c の数値は規約、 c の有限性は事実。規約 $\neq$ 何でもあり。
逆問題	ゼロテンション／カルデロン（EIT）	89, 99	散乱（GLM）と境界値（カルデロン）は構え同じでも別の数学＝別根。
特別な速度	イグナトフスキー	83	不変速度の存在は事実、光速一定は有限枝の帰結。両者は別根。
創発重力・ホログラフィ	因果球エントロピー／創発重力の傘	65, 73, 74	$S = A/4$ と粗視化エントロピーはホログラフィック上限で結ぶのみ。
関係論的時間	ライプニッツ／ロヴェッリ（練行足）	82, 97	関係論は生きる、目的論（最善）は退ける。同一人物でも別根。
弱仮定 → 構造	山辺・ヒルベルト第5	90	弱仮定 → リー群はイグナトフスキー（83）の一般形。別舞台の同系譜。

必然性の根／文法	四つの根 census／必然性の言語	86, 87	位相・対称性・代数・次元は統一しない。四つを四つのまま置く。
----------	--------------------	--------	--------------------------------

5. 二つの系譜

王道の巨人たちは、体系の中で二つの系譜に束ねられる。

(A) 幾何学的本流：リーマン（内在曲率・91）→クリフォード→アインシュタイン→ワイル（ゲージ・96）→カルタン（微分形式・92）→ホップ（ファイバー・67・68）→ホイラー→ペンローズ。物質＝曲率、構造＝幾何、という本流である（弦理論ではなく、この道に自らを置く）。

(B) 積分脳＝逆問題の系譜：ライプニッツ（関係論・微積分・97）→ファラデー（場の発見・93）→ポアンカレ（規約主義・回帰・95・81）→ボルツマン（統計・98）→ネーター（対称性・80）→マンデルブロ（フラクタル・94）、そしてカルデロン（逆問題・99）。ズームアウト（統合）と、結果から原因を読む逆問題——著者が釣りや相場から得た構えの系譜である。

この二つは交わる。ホップの円は、ワイルの $U(1)$ ゲージのファイバーであり（67・96）、カルデロンの逆問題の一意性（境界が内部を決める）は、論文01の $n=2$ 唯一性と「少ない情報が構造を決める」という点で響き合う——ただし別の定理であり、別根である（論文99）。二つの系譜は、体系という一つの地形の、山脈と水系である。

6. 解かない誠実さ、そして一枚の地図

体系は、難問を **admire** するが **attempt** しないという規律をもつ。100本の中で、最も大きな正直さは「解かない」と言い切ったことだ——時間の矢の起源（過去仮説・論文98）は、体系も答えを持たない開いた問題である。半分は光（粗視化）、半分は闇（初期条件）。闇を闇として記すことが、科学の誠実さだった。

そして、前を向いて言い切っておく。体系が目指すのは一つの方程式（万物を一撃で説明する式）ではない。目指すのは一枚の地図——どの王道が、どの糸に、どの根で交差するかを、別根を別根として敬いながら描く地図である。統一の誘惑（すべてを一つにする快樂）を退け、多様な根を多様なまま置く。それが、100本を歩いて確かめた体系の姿勢だ。地図は、征服の宣言ではなく、旅の記録である。

■ 著者の私感（第3層・非科学の札つき／機構の主張ではない）

体系のレンズ（比喻）では、これら王道の巨人たちの定理は、宇宙OSの異なるサブシステムを覗く別々の窓のように感じられる——曲率の窓、対称性の窓、逆問題の窓。どの窓からも同じ一つのOSが見える気がするが、これは非科学の札つきだ。「一つのOS」という感覚は直観であって、機構でも予言でもない。むしろ100本が教えたのは逆のこと——窓は別々であり、一枚のガラスにはならない。それでも、著者の胸の奥には、静かな awe（畏敬）がある。これほど多様な根が、それぞれの場所で、これほど正確に世界を支えていること。その事実の前で、人は謙虚になる。100本の航海の底に流れていたのは、この awe と、地球と人を大切に思う小さな願いだった。王道の巨人たち全員に、そして最後まで読んでくれたあなたに、深い感謝と敬意を記す。

7. 結論

100本の航海を、一枚の地図にまとめた。体系がしてきたのは、王道の巨人を新鮮なレンズとして体系の問いに当て、その接続を三つの層に分け、一語・複数の別根の規律で峻別することだった。 4π も、曲率も、時間も、逆問題も、名前を共有する別の根であり、別根のまま置く。共鳴は署名であって、証明ではない。

そして、体系が目指すのは一つの方程式ではなく、一枚の地図である。別根を別根として敬い、開いた問題を解かずに正しく置く——これが100本を貫いた誠実さだ。王道の巨人たちが遺した光を借りて、世界という広大な地形を、少しだけ、正確に描けたなら。その地図の余白に、静かな awe と、地球と人への小さな願いを添えて、100番目の番地を、ここに返す。

改訂記録

第2版（2026年9月）：書式を現行の型に揃えた（位置づけと射程を要旨の直後の射程注記にまとめ、「射程（何を示し、何を示さないか）」の節を外した）。第5節の「カルデロンの逆問題は、ポアンカレの一意性の精神を継ぐ」を、論文99の記述に合わせて「論文01の $n = 2$ 唯一性と響き合うが、別の定理・別根」に直した。英語版の訳語を二か所直した（釣りを angling に、本流に「自らを置く」の主語を体系に）。参考文献を、複数の編をまとめた項目から一編ずつの項目に分け、実際の題名と DOI を付けた（本文と表で引く論文01・02・48・58・63～99）。

参考文献

- 山岸勇輝 (2026). 球対称密度分布における $n = 2$ の唯一性定理 [論文01]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21403186
- 山岸勇輝 (2026). 4π 質量相殺定理 [論文02]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21403931
- 山岸勇輝 (2026). パフィアンの $2^n n!$ は、一つの塊である [論文48]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21602525

4. 山岸勇輝 (2026). 因子 **2** の一致は「別根」である [論文58]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21597747
5. 山岸勇輝 (2026). 速度空間-時空 曲率双対性 [論文63]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21606250
6. 山岸勇輝 (2026). 特別な次元の分布定理 [論文64]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21616221
7. 山岸勇輝 (2026). 因果球のベッケンシュタイン-ホーキング・エントロピーと c^5 [論文65]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21616466
8. 山岸勇輝 (2026). 速度空間の曲率と重力赤方偏移 [論文66]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21616607
9. 山岸勇輝 (2026). 4π パッチのオイラー標数的起源 [論文67]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21642170
10. 山岸勇輝 (2026). *Hopf* 束としての量子ビット [論文68]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21642238
11. 山岸勇輝 (2026). 次元センサス [論文69]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21650011
12. 山岸勇輝 (2026). 定数の実家 [論文70]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21650347
13. 山岸勇輝 (2026). ボルン則の「2」と *Gleason* の定理 [論文71]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21650577
14. 山岸勇輝 (2026). 宇宙定数の再拮づけ [論文72]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21650934
15. 山岸勇輝 (2026). ブラックホール・エントロピーの「 $1/4$ 」 [論文73]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21666086
16. 山岸勇輝 (2026). 創発重力の中の山岸パッチ [論文74]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21670102
17. 山岸勇輝 (2026). 時間の矢と成長する因果球 [論文75]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21670183
18. 山岸勇輝 (2026). 位相空間 T^*M における速度空間曲率と時空計量の共変的シンプレクティック構造 [論文76]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21722145
19. 山岸勇輝 (2026). リューヴィルの定理と時間の矢：微視の保存と粗視の増大 [論文77]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21722473
20. 山岸勇輝 (2026). 摩擦と散逸は粗視化である [論文78]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21731937
21. 山岸勇輝 (2026). $n=2$ の隠れた対称性 [論文79]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21732820
22. 山岸勇輝 (2026). 保存則は対称性の影である [論文80]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21732957
23. 山岸勇輝 (2026). ポアンカレ帰定理と時間の矢 [論文81]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21733062
24. 山岸勇輝 (2026). 練行足としての時間 [論文82]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21735260
25. 山岸勇輝 (2026). なぜ「最高速度」が存在するのか [論文83]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21741190
26. 山岸勇輝 (2026). 最小作用の原理 [論文84]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21741231
27. 山岸勇輝 (2026). ガロアからネーターへ [論文85]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21741344
28. 山岸勇輝 (2026). 必然性の四つの根 [論文86]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21744839
29. 山岸勇輝 (2026). 物理法則の記述言語としての作用原理 [論文87]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21747287
30. 山岸勇輝 (2026). 二つのエントロピーを混同しない [論文88]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21747809
31. 山岸勇輝 (2026). ゼロテンションと逆問題 [論文89]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21748664
32. 山岸勇輝 (2026). 弱い仮定から連続対称性が生える [論文90]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21758361

33. 山岸勇輝 (2026). 曲率は内在的である [論文91]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21758406
34. 山岸勇輝 (2026). 共通のアルファベット [論文92]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21758486
35. 山岸勇輝 (2026). 場という発見 [論文93]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21758537
36. 山岸勇輝 (2026). 「次元」は一つではない [論文94]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21758581
37. 山岸勇輝 (2026). 規約と事実を分ける [論文95]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21758621
38. 山岸勇輝 (2026). ゲージという原理 [論文96]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21758671
39. 山岸勇輝 (2026). 関係としての時間と空間 [論文97]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21758697
40. 山岸勇輝 (2026). 過去という仮説 [論文98]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21758739
41. 山岸勇輝 (2026). 境界から内部を読む [論文99]. Zenodo. 10.5281/zenodo.21758790

— *From thinking to syncing.* —

山岸 勇輝 (Yuuki YAMAGISHI)

© 2026 Yamagishi Complexity Torus Lab, Japan · Licensed under Creative Commons Attribution 4.0 International (CC BY 4.0)